

筆記試験

〔1〕写景盛花様式本位における「敷き松葉」の取合せと挿法について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

取合せ： ・日蔭・枯れ松葉

挿法： 冬・ 描写

枯れ松葉を とともに用い、 に敷きつめて使うことが とされている。

ごく限られた景観（ や茶室の など）を描写するとき用いられる表現方法で、

松葉の葉針が長いときには半分に切る。敷き松葉は、水盤の適当な場所に葉と葉が絡まっている状態で

ように敷く。

枯れ松葉は使う前に した湯を注いで10分程度蒸すと、 がでて色がいつそう鮮やかになる。

・特徴	・遠景	・艶	・苔つつじ	・近景	・山間の茂み
・沸騰	・全体的	・藪こうじ	・露地	・海浜	・日蔭
・南天	・庭園	・盛り上げる	・中景	・部分的	・沈める

〔2〕次の表に従って、秋の取り合わせを解答用紙に記入しなさい。（必ず日本種の花材を使い、同一花材が重複しないこと）

※この取合せの解答は一例です

	形式	条件	取合せ
1	盛花	写景盛花様式本位（5種）	薄 女郎花 りんどう われもこう 日蔭
2	盛花	色彩盛花色彩本位（3種）	葉万作 さるとりいばら 中菊
3	瓶花	三種挿し	つる梅もどき 木苺 鶏頭
4	盛花	写景盛花自然本位（5種）	野いばら 蓮の葉と実 燕子花 暖竹 河骨

〔3〕いけばな史にあらわれる次の事項について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。（ただし、同じ語句を2度使うことがあります）

○山科道安

時代中期の 。近衛家熙の侍医で、家熙の言動や行動を書き留めた『 』の筆記者として知られている。

本書は ・庭園・道具の来歴・ ・いけばなの秘訣などについて見識に富んだ指導書となっている。

○藤掛似水

時代中期、 を中心に活躍した、池坊の 。元禄時代、 に池坊会頭・ とともに松一色の立華を立てたことで知られる。

・平安	・茶道	・立華師	・江戸	・刀剣	・猪飼三枝
・槐記	・東京	・明治	・香道	・画家	・同朋衆
・聚楽第	・医師	・池坊専応	・大坂	・御飾記	・東大寺大仏開眼

筆記試験

〔1〕 写景盛花様式本位の「秋の散り紅葉」の挿法について、空欄に該当する語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

◎ 取合せ： 苔つつじ 女郎花 りんどう 日蔭 紅葉

◎ 挿法： **近景** 描写

花型は **直立型** で構成する。水面の **前半分** を開け、花材は **後ろ半分** にいけ上げる。まず、苔つつじを傾斜型の主・副・中間の扱いで **左右** に展開させ、次に女郎花を挿す。この様式の場合には、あとから入れる女郎花が主枝で、先に入れた苔つつじの主枝が直立型の **副枝** とみなされる。ただし、女郎花の扱いと苔つつじの状態によっては、全体を **傾斜型** として構成しても間違いではない。苔つつじは全体を構成する上で重要な役割を持っている。りんどうは主の側に **1本** 低く、客の側に **2本**、長短をつけて挿す。水面に散らした紅葉が **客枝** となる。

・中景	・遠景	・右半分	・近景	・傾斜型	・後ろ半分
・観水型	・2本	・中間枝	・前後	・中央	・副枝
・3本	・直立型	・1本	・左右	・前半分	・客枝

〔2〕 下表の項目に従った取合せを、解答用紙に記入しなさい。

※この取合せの解答は一例です

	形式	区分	条件	取合せ
1	盛花	写景盛花自然本位	初雪の主題で	錦木 藪椿 水仙 隈笹 晒しだ
2	盛花	色彩盛花色彩本位	フォックスフェイスを使って	アレカやし フォックスフェイス アンズリウム
3	盛花	色彩盛花色彩本位	フォックスフェイスを使って	みつまた フォックスフェイス モンステラ
4	瓶花		ストレチアを使って	苔松 ストレチア 神楽椿

〔3〕 流祖小原雲心先生の業績について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

明治 中期に、**盛花** といういけばな形式を創案し、近代いけばなの基礎を築いた。そしてこの盛花に、**洋花** を取り入れて色彩的な表現をする **色彩盛花** と、自然の景観を描写する **自然盛花** という2つの表現目的を定めた。同時に手すさびの花とされていた **投げ入れ花** を体系化し、**瓶花** という名で指導上に定着させた。また、それまで **寺** などで行われていた花会を **デパート** で行い、いけばなを **一般** に普及させるのに大きな功績があった。

・色彩盛花	・室町	・小品花	・寺	・一斉教授	・中国
・デパート	・投げ入れ花	・加工素材	・明治	・自然盛花	・武家
・盛花	・花意匠	・文人花	・洋花	・瓶花	・一般

筆記試験

〔1〕 写景盛花様式本位における水仙の扱いの要点について、空欄にあてはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

冬の **近景** 描写・花型は **直立型**

水仙を挿す場合には主・副・中間・客のいずれも直立させて挿し、必ず **葉組** したのものを使う。したがって、自然組のものを使うことはない。花1本と葉が **4** 枚で **1** 本の水仙を構成し、葉組は、**2** 枚ずつ重ね合わせ、内側になる葉は短く、向き合う葉の長さも同じにならないように変化をつける。葉組の長短はいずれの場合においても **後ろ** が高く、**前** は低く挿す。

日蔭を敷いた場合、**はかま**（根元についている白い部分）は山形の部分を正面にしてはかせ、**日蔭** の上に見えるようにする。

・4	・自然組	・近景	・前	・子株	・7	・日蔭
・観水型	・2	・葉組	・13	・はかま	・直立型	・1
・山しだ	・後ろ	・実	・中景			

〔2〕 下表の項目に従った取合せを、解答用紙に記入しなさい。

※この取合せの解答は一例です

	形式	区分	条件		取合せ
1	盛花	写景盛花自然本位	木枯しの主題で	5種	野いばら 紅葉なら 小松 小菊 晒しほうき木
2	盛花	写景盛花様式本位	春の花材で		木瓜 菜の花 日蔭
3	盛花	色彩盛花色彩本位	アンズの花を使って	3種	白づる モンステラ アンズリウム
4	瓶花		デンファレを使って	3種	アロカシア デンファレ リモニウム・アルタイカ

〔3〕 いけばな史に現れる次の事項について、空欄にあてはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

○同朋衆

武家 階級の職名。 **室町** 時代にはじまり、 **幕府** の雑務を勤め、茶事を司った僧体の小吏。阿弥号を名乗ったところから **阿弥衆** とも呼ばれる。 **唐物鑑定** や **座敷飾り** に秀で、初期いけばなにたずさわった。

○瓶史

中国 のいけばな書。著者は **明** 時代の文人・ **袁宏道** 。中国文人の瓶花趣味を伝える専門の書として、日本人に最も親しまれたもの。瓶花の心得と観賞について記し、 **抛入れ花** が生花様式に展開していく過程で大きな影響を及ぼした。

・阿弥衆	・漢	・座敷飾り	・袁宏道	・公家	・蓬萊山人
・室町	・中国	・大覚寺	・盛花	・幕府	・抛入れ花
・明	・陶芸	・武家	・江戸	・文人	・唐物鑑定

筆記試験

〔1〕 次の主材の、春の写景盛花様式本位における描写法と挿法の要点について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。同じ語句を2回使用してもよい。

○梅 描写法・遠景

梅は **一木挿し** に扱い、 **直立型** に構成する。

配材の **錦紅花つつじ** は **縮小挿法** をとる。

下草として **日蔭** を敷く。

○木瓜 描写法・中景

木瓜は **一株挿し** とし、 **傾斜型** または直立型に構成する。

配材の **菜の花** は縮小挿法はとらないが、 **中景** として小ぶりに扱う。

下草として **日蔭** を敷く。

・菜の花	・下垂型	・遠景	・一株挿し	・観水型	・錦紅花つつじ
・近景	・山しだ	・傾斜型	・山百合	・中景	・輪状の株立ち
・一木挿し	・日蔭	・一株括り	・縮小挿法	・一種挿し	・直立型

〔2〕 写景盛花様式本位で、燕子花を使った下記の季節・描写法の基本取合せを記入しなさい。
なお、花材の重複はしないこと。(ただし、日蔭のみ重複可)

季節	描写法	取 合 せ
春	遠景	雲龍柳 燕子花 日蔭
春	中景	芽出し木苺 燕子花 日蔭
春	近景(早春の挿法)	燕子花 日蔭
春	近景(春の挿法)	燕子花一種

〔3〕 いけばな史に現れる次の事項について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

○仙伝抄

室町 時代末期の **立て花** の伝書。 **池坊専慈** (専応) が相伝したもの。内容は、本文・谷川流・奥輝之別紙の3つの部分からなる。本文は池坊系のいけばな、谷川流は **公家** の系統のいけばな、奥輝之別紙は **義政公御成式目** の異本であろうとされている。

○木目阿弥

室町時代後期の画家・香道家。またいけばな、香道の名手。祖父・ **能阿弥** 、父・ **芸阿弥** と三代続いて将軍 **義政** に仕え、 **同朋衆** となる。画に秀で、書画・茶器類の鑑定、造園にも通じた。座敷飾りの書『 **君台観左右帳記** 』を相伝記録する。

・能阿弥	・文人	・室町	・義政	・武家	・義政公御成式目
・池坊専定	・世阿弥	・同朋衆	・平安	・池坊専慈	・古今立花大全
・立て花	・鎌倉	・公家	・芸阿弥	・家康	・君台観左右帳記

筆記試験

〔1〕写景盛花様式本位における、早春の燕子花の挿法と、春の燕子花の三株いけの挿法について、空欄にあてはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。同じ語句を2回使用してもよい。

●早春

早春の場合は、燕子花の **若葉** の表現となる。日蔭を敷いて **自然組** と **水切り葉** を用いる。花はごく低く **葉組** の間にのぞかせる。葉組は全体に長短をつけない。

●春

春には **二枚組** の表組、裏組、 **五枚組** 、 **水切り葉** を用い、下は広く上は締まるようにうぶな感じにふっくらと組む。**花** は早春より成長して高くなるが、 **葉組** より高くなることはない。早春より主・副の株と客株とに **長短** の変化がついてくる。

・季節	・三枚組	・葉組	・自然	・双葉	・自然組	・長短
・二枚組	・水切り葉	・花	・組葉	・五枚組	・表組	・若葉
・器	・株数	・葉	・裏組	・水面	・水辺	・日蔭

〔2〕色彩盛花様式本位で、下記を主材とした取合せを解答用紙に記入しなさい。

(但し、取合せは3種とし、花材の重複は避けること)

※この取合せの解答は一例です

主 材	取 合 せ
アガパンサス	アガパンサス・夏菊・鳴子百合
ぎぼうし	ぎぼうし・ダリア・かるかや または 薄
紫 苑	紫苑・鶏頭・小菊
谷 渡 り	谷渡り・ばら・デージー
黄 中 菊	黄中菊・赤中菊・白中菊

〔3〕いけばな史にあらわれる次の事項について、空欄には当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

○本阿弥光悦

安土桃山 時代の工芸家。刀剣の鑑定をよくするほか、書に優れて **寛永三筆** の一人といわれた。また、漆芸・**陶芸** にも秀で、その指導的立場にいた。 **鷹ヶ峰** に芸術村を作って総合的芸術活動を行った。

○池坊専応

室町 時代後期の華道家。立花の名手として知られる。宮中へも伺候して名声を博した。『**仙伝抄**』を相伝し、『**専応口伝**』をまとめる。特に後者はいけばな理論書として後世まで影響を与えた。

○大住院以信

江戸時代前期の **立華師** 。京都 **本能寺** の僧で **二代専好** と並ぶ名人とされた。一時期、江戸へ下向して大名屋敷を中心に活躍し、名声を博す。作風は華麗で特殊な姿形を好んで立てるのが特徴。

・陶芸	・立華師	・桂離宮	・安土桃山	・東大寺	・花王以来の花伝書
・仙伝抄	・室町	・小原雲心	・阿弥衆	・明治	・寛永三筆
・本能寺	・造園	・専応口伝	・鷹ヶ峰	・二代専好	・御飾記

筆記試験

〔1〕色彩盛花様式本位における、菊の三種挿しの扱いの要点について、空欄にあてはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

一輪咲きの **中菊** 3種類（黄 **5** 本・赤3本・ **白** 3本）を用いることが基準。

直立型に花型構成し、主枝・ **副枝** ・中間に **黄** 色、客枝・中間に白、中間を **赤** 系統の花色とする。

直立型の花型の基本を守って挿すが、主枝・副枝の **前後** の奥行より、副枝から **客枝** への **左右** の広がりの方が **長く** なるように構成しなければならない。

・前後	・白	・小菊	・5	・下草	・客枝
・緑	・上下	・副枝	・黄	・長く	・近景
・中菊	・7	・短く	・左右	・主枝	・赤

〔2〕南画謎語画題に出題される植物のうち、下記のものとは日本での呼称はなんというか、空欄にあてはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。（語句は重複して選択しても良い。）

	画題	日本名		画題	日本名
1	高風清節	竹	6	祝 茸	靈 芝
2	花 王	牡 丹	7	紅 薬	芍 薬
3	寒 玉	竹	8	元 日 草	福寿草
4	王 者 香	蘭	9	黄 玉 花	水 仙
5	映 山 紅	つつじ	10	歳寒玉骨	梅

・竹	・蘭	・菊	・水仙	・海棠	・芍薬	・百合	・つつじ	・梅
・福寿草	・藤	・牡丹	・靈芝	・松	・枇杷			

〔3〕いけばな史に現れる次の事項について、空欄にあてはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。ただし、同じ語句が2度使うことがあります。

○御飾記

室町 時代の **座敷飾り** の秘伝書。相阿弥が伝授したもの。相阿弥は **能阿弥** の孫にあたり、

同朋衆 としての経験と知識を図解しながらまとめたものが本書である。内容は **足利義政** 邸などの

座敷飾りの詳細である。

○土佐光信

室町 時代後期の **画家** 。 **漢画** の影響を受け、 **大和絵** の絵画を一変。大和絵中興の祖といわれる。

代表作は「 **北野天神縁起絵巻** 」など。

・世阿弥	・大和絵	・同朋衆	・明治	・座敷飾り	・燕子花図屏風
・足利義政	・画家	・造園	・医師	・能阿弥	・専応口伝
・室町	・足利尊氏	・漢画	・公家	・琳派絵画	・北野天神縁起絵巻

筆記試験

〔1〕写景盛花様式本位の遠近描写法について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

1. 写景盛花様式本位のもつ特有の技法で、**水盤上** に表現する景観に **遠近感** を出すための技法。
2. 遠景・**中景** ・近景に大別され、遠景は遠望する **大樹** の姿、中景は枝ぶりよく生い茂る木々の姿、近景は **眼前** の草花や、木では枝ぶりや花・**葉** の美しさを描写の主体とする。
3. 遠景描写に一木挿し・**縮小挿法** 、中景描写に **一株挿し** 、近景描写に水ものの **葉組** ・株挿しなどの定められた挿法がある。
4. 植物を高木・**低木** ・草花に大別し、遠景・中景・近景の目的にあった取合せが定められている。

・葉	・中景	・瓶	・低木	・水盤上	・輪状の株立ち
・多面性	・大樹	・葉組	・遠近感	・一種挿し	・実
・縮小挿法	・海浜	・一株挿し	・親株	・眼前	・一木挿し

〔2〕秋の花材を使った琳派調いけばなの取合せを解答用紙に記入しなさい。(花材の重複はしないこと)

※ この取合せの解答は一例です

	条 件	取 合 せ 花 材
1	三種挿し	萩 秋海棠 ほととぎす
2	三種挿し	鶏頭 楓 尾花
3	五種挿し	葉鶏頭 楓 女郎花 りんどう 孔雀草
4	五種挿し	実松扇(ぬばたま) 秋明菊 小松 紫式部 友禅菊

〔3〕いけばな史にあらわれる次の事項について、空欄には当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

○本阿弥光悦

安土桃山時代の工芸家。刀剣の鑑定をよくするほか、書に優れて **寛永三筆** の一人といわれた。また、

漆芸

・陶芸にも秀で、その指導的立場にいた。

鷹ヶ峰

に芸術村を作って総合的芸術活動を行った。

○狩野山楽

安土桃山時代の画家。 **豊臣秀吉** に仕えた。画風は豪放であると同時に装飾的。代表作は妙心寺の

「**竜虎図**

」・ **大覚寺**

の「牡丹紅梅図」といった障壁画などがある。

○尾形乾山

江戸

時代中期の陶工・画家・ **光琳** の弟。

野々村仁清

に陶法を学んで別に新意を出した。

作陶は雅趣があり、 **京焼** に大きな影響を与えた。

・東大寺	・江戸	・鷹ヶ峰	・造園	・野々村仁清	・大和絵中興の祖
・竜虎図	・京焼	・桂離宮	・室町	・大覚寺	・寛永三筆
・漆芸	・古田織部	・光琳	・砥部焼	・豊臣秀吉	・風神雷神図